

# キャンプ実習が高校生の信頼感に及ぼす影響 ～カウンセラーの関わりに着目して～

佐藤 匠馬 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)  
指導教員 黒澤 毅

キーワード：信頼感, 高校生, キャンプカウンセラー

## 1. 序論

キャンプを成功させ子どもに貴重な体験を与える上で鍵を握っているのは指導者, 特にキャンプカウンセラーである<sup>3)</sup>. 組織キャンプは自然の中で共同生活を行うことで, 自分を見つめ, 他者との深い交流をする機会となり, 自己への信頼・他者への信頼に効果的であると考えられる. そこで本研究は, キャンプ実習が高校生の信頼感に及ぼす影響についてキャンプカウンセラーの関わりに着目し, 明らかにすることを目的とする.

## 2. 研究方法

被験者は, 平成 27 年 4 月 16 日～18 日に 2 泊 3 日で, 行われたチャレンジキャンプに参加した高校 3 年次生 41 名 (男子 29 名, 女子 12 名) を実験群とした. また, 同校のキャンプ未経験者 37 名を統制群とした. さらに, キャンプカウンセラーである, 大学で野外教育を学ぶ学生 5 名も対象とした.

調査は, 信頼感の測定に天貝<sup>1)</sup>が作成した「信頼感尺度」を用いた. 因子は自己信頼, 他者信頼, 不信の 3 つで構成されている. また, キャンプカウンセラーへの信頼感の測定に, 中井ら<sup>4)</sup>の「生徒の教師に対する信頼感尺度」の中から安心感, 正当性の 2 因子を抜粋, 修正して用いた. キャンプカウンセラーの魅力測定するために, 蘭ら<sup>5)</sup>の「社会的に望ましい人格を表す 20 の修飾語とその反語からなる人格尺度」を用いた. 因子は信頼・受容性, 明朗性である. また, キャンパーへの関わり・言葉がけを明らかにするため, 筆者が独自に作成したふりかえり用紙を用いた. 調査時期は表 1 に示した.

表1 調査時期

調査対象	調査用紙	camp1 4月16日	camp2 4月17日	camp3 4月18日	post1 4月22日
実験群	自己・他者信頼感	○	○	○	○
	カウンセラー信頼感	○	○	○	○
統制群	自己・他者信頼感	○			○
	カウンセラー ふりかえり	○	○	○	

## 3. 結果と考察

1) 実験群と統制群の信頼感について：全ての因子に有意な差がみられた (表 2). プログラムである ASE や登山など, キャンプ経験によって仲間と協力したり個人の挑戦が必要になる場面が何度もあったことが信頼感に影響したと考える.

表2 因子得点の平均と標準偏差及び分散分析表

	群	camp		時期	群	交互作用
		camp1	post1			
自己信頼	実験群	26.4 (3.52)	29.2 (4.24)	5.98 *	16.19 ***	4.58 *
	統制群	25.2 (3.83)	25.4 (3.88)			
他者信頼	実験群	37.9 (5.16)	40.3 (5.39)	4.70 *	15.62 ***	3.70 †
	統制群	36.2 (4.79)	35.6 (4.96)			
不信	実験群	28.8 (8.73)	23.9 (11.20)	2.83 †	12.56 **	3.34 †
	統制群	31.2 (7.23)	31.4 (6.97)			

実験群：N=41 統制群：N=37 \*\*\*p<.001 \*\*p<.01 \*p<.05 †p<.10

2) 実験群の信頼感の変化について：全ての因子に有意な差がみられた (表 3). 特に, 自己信頼 (男子) に有意な得点の向上がみられた. 信頼について, 子どもの信頼感基本的には他者に対する信頼感がつくられ, その後に自己に対する信頼感もつくられていく<sup>2)</sup>ことから, 他者への信頼の獲得が自己への信頼の向上の鍵となっている. ASE において, 仲間とともに課題を解決したり, 仲間を信頼し挑戦すること, また, 登山中に起こる仲間との助け合いや切磋琢磨することなどの経験が自己信頼・他者信頼を向上させ, 不信の低下につながったと考えられる.

表3 キャンプ実習中における信頼感因子得点の推移

N	M (SD)				時期 F値
	camp1	camp2	camp3	post1	
自己信頼	41 26.4 (0.937)	27.6 (0.915)	29.7 (0.949)	29.3 (0.881)	2.42***
他者信頼	41 37.9 (0.978)	39.9 (0.925)	40.2 (0.895)	40.4 (0.913)	2.33***
不信	41 28.8 (1.306)	25.2 (1.334)	23.8 (1.300)	23.9 (1.304)	2.61***

\*\*\*p<.001

3) キャンプカウンセラーへの信頼感について：自己信頼の向上群においてキャンプカウンセラーへの信頼感は向上 (F(1)=4.84 p<.001) し, 他者信頼の向上群 (F(1)=2.87 p<.10), 不信の低下群 (F(1)=2.89 p<.10) においてキャンプカウンセラーへの信頼感は向上の傾向がみられた. 登山でキャンプカウンセラーがキャンパーを心配したり, 様子を伺う言葉がけ, ASE 時の助言などがみられたことで, 信頼関係が構築されたと考える. また, 記述から「しんどい時に声をかけてくれた」「わからないことを丁寧に教えてくれる」など, 信頼感が向上した群に対するキャンプカウンセラーへの信頼感には全ての因子に向上がみられた. 一方で, 日が経つにつれ魅力が低下した要因として, 積極的介入から一歩離れた立場, 必要最低限の関わりに変化したことが影響していると考えられる.

## 4. まとめ

本キャンプ実習では, キャンプカウンセラーのプログラムにあった関わり方がキャンパーの信頼感に影響を与えたと示唆された.

引用・参考文献

- 1) 天貝由美子 (1995)：信頼感尺度, 心理測定尺度集 II, pp. 104-108
- 2) 新井邦二郎, 宮腰養, 後藤かつ (1995)：幼児の主体性の教師評定尺度の作成 (2), 筑波大学心理学研究, 第 17 巻, pp. 67-88
- 3) 飯田稔 (1992)：森林を生かした野外教育, (社) 林業改良普及協会
- 4) 中井大介, 庄司一子 (2006)：中学生の教師に対する信頼感とその規定要因, 教育心理学研究, 第 54 巻, pp. 453-463
- 5) 蘭千寿, 小窪輝吉 (1978)：魅力形成に及ぼす社会的望ましさの効果, 自己評価・判断次元との関連について, 実験社会心理学研究, 第 18 巻, pp. 75-81